

創刊昭和55年5月5日
第403号
 【通巻404号】

発行所 まんいちほち
418こちら情報部
 〒418-0063
 富士宮市若の宮町140(きうちいんさつ内)
 TEL(0544)24-1515
 E-mail: printkiuchi@space.ocn.ne.jp

印刷所
株式会社 きうちいんさつ

次号は 2014年1月5日の発行です。
 発行数 15,500部

読む人が楽しみ 書く人も楽しむ
 とっておきの心の手帳

日に ごとに寒さが加わります。
 お元気で良いお年をお迎え下さい。

こちら情報部
 yon.ichi.hachi.

何を書こうかな⑨ **青春という列車**

秋はコンサートが多い。先日もロゼに出掛けた。フオークの南こうせつ・伊勢正三がやって来たからだ。幕が開くと、青春の歌を次から次へと歌ってくれた。殆ど、恋がテーマになっている。失恋、別れがその中心だ。聴くうちに自分の青春が蘇ってきた。埼玉から富士宮へと新任で赴任した際、私を見送りに後輩たちが五、六人やって来てくれた。その中の一人が出版のベルと同時に、柱に顔を埋めていた。プラットフォームと言え、新幹線の東京駅でも別れのシーンが浮かんでくる。富士宮に来て二年目だった。友人から東京へ遊びに来ていと誘われ、久しぶりに都会へと出た。そこに待っていたのは友ではなく、高校時代の失恋相手だった。何故、君なのと不思議に思うままに、その日、一日中、東京中を歩いていた。最終の新幹線の時刻がやって来た。黙って、そっと手を離



斉藤俊朗 (矢立町)

し、列車に飛び乗った。私はふと我に返り、妻の横顔を見ないのだが、ちよっぴり恥ずかしさを覚えた。そして、二度、三度と横顔を覗くうちに、

マンズリーウェイ 24 **妄想水**

最近、ある本を読み、『仮想水』という言葉を知った。私は日本が水の豊かな国だと信じていた。これまでも夏に雨が降らなくて、ダムが干上がり水不足が問題になることがあったが、日本の年間降雨量が世界の年間降雨量の平均の半分以上だとは決して思わなかった。それなのに、なぜ我々は日本は水が豊かな国だと思ってきたのだろうか？その答えは

最近、ある本を読み、『仮想水』という言葉を知った。私は日本が水の豊かな国だと信じていた。これまでも夏に雨が降らなくて、ダムが干上がり水不足が問題になることがあったが、日本の年間降雨量が世界の年間降雨量の平均の半分以上だとは決して思わなかった。それなのに、なぜ我々は日本は水が豊かな国だと思ってきたのだろうか？その答えは

角田 猛夫

気が付いた。青春というピラミッドの頂上には妻がいたのだ。幕は静かに閉じていた。望月 勝

2014 年賀状 デザイン集

新年の幕開けに彩り豊かな贈り物を。

2014 CALENDAR

好評発売中

年賀状がもっと楽しくなる!

2014 富士山カレンダー

表富士ポストカードカレンダー

7枚綴り
 SIZE: 620×440mm

販売価格 **¥1,050**

表富士の四季

12枚綴り
 SIZE: 100×210mm

販売価格 **¥250**

ご注文・お問い合わせ

株式会社 **きうちいんさつ**

TEL 本社/27-4055 事業部/24-1515
 営業時間 8:00~17:00(土日祝を除く)
 URL <http://www.kiuchi-prt.co.jp>

静岡県立朝霧野外活動センター

① プラネタリウム一般開放
 ~おうし座と、冬の星空~
 家族で冬の夜空を楽しもう!

15日(日)
 1部 13:15~受付 13:30~14:30上映
 2部 15:00~受付 15:15~16:15上映

※詳細は後日センターHPにて発表いたします。
 TEL:0544-52-0321 HP: <http://asagiri.camping.or.jp/index.html>

冬 茜

日ごとに風が冷たくなり、日が短くなって行く。つるべ落し”のひと時。西の空が赤色に彩られ、いみじくも、草かんむりに西と書いて「茜」と読ませるあたりが、文学的であり、しかも妙趣に富む。

『茜』は、植物の「あかね」や、その根から取った染料の色「あかね色」を表す。やや沈んだ赤だが、「西の空が茜色に染まる」のように夕焼空を表現するためにも用いられるため、深みとともに鮮やかな印象もある。

——(円満)著「漢字ときあかし辞典」、研究社

歳時記によれば——冬の夕焼は短い、街空に野末の空に、妙に余韻を残すものである。(中略)寒夕焼とか寒茜というときは、寒の内一カ月の、つまりいちばん寒いときの、凍えるような、それだけに赤き身にしみる夕焼を指すものと心得るべし。(俳人、金子兜太)

彼の北原白秋は、詩歌の一節(「片恋」)で……。
 あかしやの金と赤とがちるぞえな。
 かはたれの秋の光にちるぞえな。

「かはたれ」は「たそがれ」のこと。「かはたれ」彼は誰。「たそがれ」誰そ彼。暗くなりかけて誰も彼もわからない：原義はどちらも同じ。万葉集にも多くの用例を見つけることができますので、漢字の伝来以前から私たちの祖先に使われていた純乎たる大和言葉です。(ただし上古では清音「カハタレトキ」で、朝方の薄明時を指す言葉)。

——(金田一秀穂監修「一日歳時記」、小学館)

あわただしい師走の往来、不況の中に薄日がさす傍ら、アベノミクスの影が見え隠れする巷間、——振りかえれば、富士山は泰然として、山頂をおおう冠雪の刹那の残照に、明日を祈る。明日という「明るい日」を。

入相の鐘や肅々山眠る

KEN III